

館脇正和：中村義輝先生のご逝去を悼む

Masakazu Tatewaki: Dr. Yositeru Nakamura (1910-1994) in memoriam



元北海道大学教授・理学部附属海藻研究施設長中村義輝先生は去る10月30日午後1時33分、札幌の入院先の病院で呼吸不全のため84才の生涯を閉じられた。先生は1910年（明治43年）8月28日福井県大野郡鹿谷村（現勝山市）のお生まれで、旧制松本高等学校を経て、1933年4月北海道帝国大学理学部植物学科に入学された。新設されて間もない理学部において、北大ならではの研究を望まれ、山田幸男教授のもとで海藻分類学の研究を選ばれた。1936年3月に卒業されたが、直ちに副手として研究生活に入れられ、傍ら札幌市内の中学校や女学校の講師として教鞭を取られた。1942年12月に北海道帝国大学理学部附属海藻研究所（現海藻研究施設）に赴任され、助手、講師、助教授を歴任、施設長を併任し、1967年教授に昇任された。室蘭では32年間に亘って研究及び教育指導の生活を続けられ、1974年に定年退官された。

先生はこの間、海藻の分類、生態、発生、生活史と幅広く研究された。まず室蘭付近の海藻の分類から始められたが、一地域のものだけでは種の把握ができないことを痛感され、広く全国に採集旅行をされて日本産の紅藻ロドコルトン属、次いでイギス属の研究をさ

れた。イギス属の研究には、当時としては斬新的なアイデアで、胞子及び発生形態に注目し、成体の形態とのつながりを明らかにし、日本産 *Ceramium* 属及び *Campylaeophora* 属の分類学的研究を完成させて、理学博士の学位を得られた（1950）。

先生が室蘭に赴任された当時は第二次世界大戦の真最中であり、また戦後は厳しい食料難であったため、ご自分の分類学の研究だけでなく、有用海藻資源調査にも協力され、北海道胆振・日高地区を始め千島方面にまでカリウム・臭素資源を求めて調査をされた。また食用海藻の北海道沿岸浅海増殖の適地調査やコンブ類の増殖事業研究にも協力を惜みず、増殖のための投石、コンクリートブロックの形状・投入時期等についても適切な指導をされ、現在の北海道におけるコンブの増・養殖の基礎づくりをされた。

先生は常に海に出て四季の海藻を観察しておられたが、その中で潮間帯岩礁域の海藻群落の遷移について、岩面剝離法を用いて帯状分布の成因解析を10年以上に亘って続けられた。この生態学的研究を通して一度破壊した自然環境は10年経っても元には戻らないと、早くから自然保護を主張されておられた。また後年、褐藻マツモ属とイソガワラ属について発生形態と体構造の類似性から、両者をつつにまとめてイソガワラ目 (Ralfsiales) の新設を提唱されたこと（1972）や、カヤモノリ科植物の微小殻状の胞子体世代の発見（1965）も、先生の詳細な生態観察によるものである。

1964年に海藻研究施設長に就任されてからは、海藻類の室内培養設備の充実を図り、厳密に環境条件をコントロールできる培養庫を多数整備して、発生・生活史の研究に専心されたが、褐藻カヤモノリ科やウルシグサ科植物の生活史の研究はわが国の海藻学の研究水準を世界的にレベルアップさせた一つといえる。先生はこれらの研究を通して、二度に亘って文部省在外研究員として欧米諸国の大学や研究所を歴訪して、シンポジウム・セミナーに参加発表され、諸外国の研究者と交流を図られ数多くの友人を得られた。

先生は教授として、大学院生の研究指導に当たられたが、私を含めて市村（北大）・中原（京大）・斉藤（弘前大）・増田（北大）等の諸氏が直接ご指導頂いた世

代である。先生はまた、学部学生には海産植物生態学の講義指導を行い、富山大学・北海道教育大学等の他大学でも非常勤講師として藻類学の講義を担当されたが、ご自分の研究や経験を内容に多く盛り込んだ講義は、学生たちの海藻及び生態学への関心に対して大きなインパクトを与えた。

また、先生は学会活動において、日本藻類学会、国際藻類学会、日本植物学会等の役員を歴任されたが、特に日本藻類学会においてはその設立に参画され、学会誌「藻類」の編集幹事として編集兼発行者を発刊当初から12年間（1952-1964）担当され、学会長として2年間（1973-1974）、学会の発展のために尽力された。この間1971年8月に札幌で開催された第7回国際海藻学会議では、組織委員並びに北海道地区準備委員長として会議準備運営の陣頭指揮をとられ、丁度ドルショックで通貨が混乱していた時であったが、各国参加者にトラブルがないように配慮して、大成功裡にこの会議を終了させた。また、長く室蘭市の文化面において幾多の貢献をされ、室蘭市社会功労者として表彰を受けるなど地域社会にも大きな足跡を残された。

先生は1974年4月1日をもって定年退職されたが、その後も数年間北海道教育大学等で非常勤講師として講義を続けられ、また(株)北海道栽培漁業振興公社顧問として、教育・研究の発展に尽力された。2年前までは学会の支部会やセミナーにもお元氣な姿を見せておられ、昨年は奥様と郷里の福井にまで旅行されたと伺っておりました。今年の3月初旬体調をくずされて入院されておられたが、まさか急に亡くなられるとは思いませんでした。在りし日の先生の面影を偲びつつ、泉下のご平安とご冥福をお祈りします。

(051 室蘭市母恋南町1-13 北海道大学理学部附属海藻研究施設)

主要業績目録

- Nakamura T. 1941. The species of *Rhodochorton* from Japan, I. Sci. Pap. Inst. Alg. Res., Fac. Sci., Hokkaido Imp. Univ. 2: 273-291.
- 中村義輝 1944. 日高沿岸加里資源海藻調査報告. 北水試月報 1: 247-256.
- Nakamura Y. 1944. The species of *Rhodochorton* from Japan II. Sci. Pap. Inst. Alg. Res., Fac. Sci., Hokkaido Imp. Univ. 3: 99-119.
- Nakamura Y. 1947. Observations on *Porphyra variegata* (Kjellm.) Hus., especially on its male frond. (in Japanese with English summary). Bot. Mag. Tokyo 60: 39-43.
- 中村義輝 1948. 紅藻類の両性胞子の発芽について. 科学 18: 470-471.
- 中村義輝 1949. テンゴサ類には何故寒天が多いか. 生物 4(1): 37-38.
- Nakamura Y. 1950. New *Ceramium*s and *Campylaeophoras* from Japan. Sci. Pap. Inst. Alg. Res., Fac. Sci., Hokkaido Univ. 3: 155-172.
- 中村義輝 1952. 昆布礁築設とその潜水調査(第1報). 北海道立水産試験場 63-75頁.
- 中村義輝 1953. 昆布の生涯. 遺伝 7(8): 9-13.
- 中村義輝 1953. 海苔の生涯. 藻類 1: 61-64.
- 中村義輝 1954. 投石コンブ礁の調査 I (浅海増殖事業効果報告). 北海道庁
- Nakamura Y. 1954. The structure and reproduction of the genera *Ceramium* and *Campylaeophora* in Japan with special reference to criteria of classification. Sci. Pap. Inst. Alg. Res., Fac. Sci., Hokkaido Univ. 4: 15-62.
- 中村義輝 1955. 浦河町白泉沿岸のコンブ流失被害調査報告. 北水試月報 12(11): 32-36.
- 中村義輝 1955. 投石コンブ礁の調査 II (浅海増殖事業効果報告). 北海道庁
- 中村義輝, 広部武男, 工藤敬司 1955. 日高沿岸のコンブ礁調査報告. 北水試月報 12(10): 13-19.
- 中村義輝 1956. 投石コンブ礁の調査 III (浅海増殖事業効果報告). 北海道庁
- 中村義輝, 伊藤繁 1956. 胆振支庁管内浅海増殖適地調査報告 (海藻類). 北海道庁 1-32頁.
- 中村義輝 1957. 投石コンブ礁の調査 IV (浅海増殖事業効果報告). 北海道庁
- 中村義輝 1958. コンクリート・ブロック投石コンブ礁の調査. I. 北海道庁
- 中村義輝, 福原英司 1958. 日高及び十勝支庁管内浅海増殖適地調査報告 (海藻類). 北海道庁 1-32頁.
- 中村義輝 1959. コンクリート・ブロック投石コンブ礁の調査. II. 北海道庁
- 中村義輝 1960. 浅海増殖事業効果報告 (長万部町). 北海道庁 81-87頁.
- 中村義輝 1960. コンクリート・ブロック投石コンブ礁の調査. III. 北海道庁
- 中村義輝 1961. 浅海増殖事業効果報告 (桧山支庁管内). 北海道庁 1-8頁.
- 中村義輝, 木下虎一郎 (1962). 室蘭港水質総合調査報告 (生物調査) 室蘭市 1-134頁.
- 中村義輝 1963. 松前コンブの水産学. 科学朝日 23(9): 35-39.
- Nakamura Y. 1965. Development of zoospores in *Ralfsia*-like thallus, with special reference to the life cycle of the Scytosiphonales. Bot. Mag. Tokyo 78(921): 109-110.
- Nakamura Y. 1965. Species of the genera *Ceramium* and *Campylaeophora*, especially of those northern Japan. Sci. Pap. Inst. Alg. Res., Fac. Sci., Hokkaido Univ. 5(2): 119-18.
- 中村義輝 1968. 生物活性をもつ海藻類の成分. 遺伝 22(8): 24-25.
- 中村義輝 1968. 海藻の採集と標本の作り方. 遺伝

- 22(8): 32-36.
- Nakamura Y. 1968. The role of marine plants on radiation. International Conference on Guidelines to Radiological Health: 112-115.
- Nakamura Y. & Tatewaki M. 1968. The occurrence of *Ralfsia*-like thallus with unilocular sporangia in *Colpomenia bullosa*. Proceedings of the Elventh Pacific Congress Tokyo, Algae in the Pacific 7: 18.
- 中村義輝 1969. 海藻群落の生産力に関する研究—特に単一群落における現存量の季節的増減. 文部省特定研究(1)「黒潮海域沿岸部の生物生産並びに物質循環に関する研究」昭和43年度研究業績報告 3-5頁.
- 中村義輝 1970. 海藻群落の生産力に関する研究—特に単一群落における現存量の季節的増減. 文部省特定研究(1)「黒潮海域沿岸部の生物生産並びに物質循環に関する研究」昭和44年度研究業績報告 7-9頁.
- 中村義輝 1971. 海藻の生活史を追って. フアルマンア 6: 478-479.
- 中村義輝 1971. 寒帯の海藻. 遺伝 24(8): 34-41.
- 中村義輝 1971. 海藻群落の生産力に関する研究—ウミトラノオ (*Sargassum thunbergii*) の現存量の季節的变化. 文部省特定研究(1)「黒潮海域沿岸部の生物生産並びに物質循環に関する研究」昭和45年度研究業績報告 15-16頁.
- 中村義輝 1971. 海洋植物の形態 1. 海藻類の形態形成と生活史. 海洋科学 3: 765-768.
- 中原紘之, 中村義輝 1971. タバコグサの生活史. Bot. Mag. Tokyo 84: 69-75.
- Nakamura Y. 1972. A proposal on the classification of the Phaeophyta. In: I. A. Abbott & M. Kurogi (eds.), Contributions to the Systematics of Benthic Marine Algae of North Pacific. pp. 147-156. Jap. Soc. Phycol., Kobe.
- 中村義輝 (1972). 海藻群落の生産力に関する研究. 文部省特定研究(1)「黒潮海域沿岸部の生物生産並びに物質循環に関する研究」昭和46年度研究業績報告 12-13頁.
- Nakahara H. & Nakamura Y. 1973. Parthenogenesis, apogamy and apospory in *Alaria crassifolia* (Laminariales). Mar. Biol. 18: 327-332.
- 中村義輝 1974. 褐藻類の発生と生活史. 遺伝 28(9): 33-37.
- Nakamura Y. & Tatewaki M. 1975. The life history of some species of the Scytosiphonales. Sci. Pap. Inst. Res., Fac. Sci., Hokkaido Univ. 6: 57-93.
- Nakamura, Y. & Nakahara H. 1977. The life cycle of *Hapterophycus canaliculatus* (Phaeophyta). Bull. Jap. Soc. Phycol. 25, Supple. (Mem. Iss. Yamada); 203-213.